

北海道に貢献する意欲のある若者の海外挑戦を、官民一体で応援する「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の旬な情報をお届けします！10月末時点で、第2期生1名、第3期生7名が海外留学中です！

「Hokkaido Study Abroad Program」で講演しました（第2期生：立岩さん）

10月23日に開催された「Hokkaido Study Abroad Program」（道教育委員会主催）が開催され、第2期生の立岩丈武さんが高校生に対し講演をしました。

この事業は、道立高校の生徒を北海道大学に派遣し、同大学の学生との英語による交流を通じて国際的な視野を育み、海外と積極的に交流する意欲の向上を図るため実施されています。

立岩さんは「みらチャレ」によるオーストラリア（タスマニア）での留学を通して学んだこと、自分自身の変化などについて講演したほか、「何のために留学するのか」、「英語を話したいか、そのメリットは何か」というテーマで、グループワークも行いました。

参加した高校生からは、「留学して良かったことは何か」という質問があり、立岩さんからは、視野が広がったこと、専門的知識を学べたこと、自分に自信が持てるようになったことを伝えました。



寄附目録の贈呈式を行いました

10月28日、アサヒビール(株)様から「ほっかいどう未来チャレンジ基金」への寄附目録をいただきました。

アサヒビール(株)様には、今年6月から8月の3か月間、北海道限定「ブラックニッカハイボール香る夜」の販売本数1本につき1円をみらチャレ基金（スポーツコース）に寄附する「世界へ翔け！北海道の未来応援キャンペーン」を実施していただきました。

贈呈式には、スポーツコース第1期生の齊藤雄大さんも出席し、支援のお礼を述べ、3月に設立したパラスポーツクラブの活動について報告をしました。

同キャンペーンは、2019年11月から2020年1月にも、実施される予定です。



留学生たちの活動状況

学生留学コース

第2期生 星野 愛花里さん ～種子生産やその輸出入を学び、北海道農業との連携を目指す～
種子ビジネスの発展が期待されるキルギスに、2018年12月から1年間留学中

9月は、無印商品の商品（ウルフェルトスターなど）として有名なイシククリ州の一村一品プロジェクトに開始時から関わっている専門家の原口さんから説明をしていただきました。

生産者の組織化や商品化過程を聞き、生産者と販売先の間には+1という中間でサービスを行う組織を作ったことで、今回のプロジェクトが動き出したという話が特に印象的でした。考え方としては日本の地方の資源発掘とその商品化にもつながると思いました。



第3期生 有働 篤人さん ～札幌を世界のデジタル観光都市にするため、ソフトウェア開発を学ぶ～
フィンランドで先進的なゲーム制作やソフトウェア開発を学ぶため、2019年9月から9か月間留学中

オウル大学でソフトウェア開発に関連する授業を中心に履修しており、同大学がハイテク産業に関する研究に関わっていることから、要求されるレベルはかなり高いと感じました。

Software Projectという授業では、企業や国の機関などが顧客となり、顧客が与える課題を3～5人のチームによるソフトウェア開発で解決することを目標としています。企業がソフトウェアを製作する時と同じ手法で、顧客となる実際の企業に対して解決策を提案するので、より実社会に近い授業だと感じました。



第3期生 海辺 菜々美さん ～北海道の地域資源を活かした観光振興のため、アドベンチャーツーリズムを学ぶ～
カナダで語学研修後、アラスカでアドベンチャーツーリズムの研究を行うため、2019年9月から6か月間留学中

バンクーバーで実践活動を円滑に行うための語学力向上に努めました。語学学校には、様々な国から生徒が来ており、彼らに共通することは、自分の意見をしっかりと示すという点です。未来を見て歩み、努力することが大切だと感じました。

自然アクティビティでは、「Lynn Canyon Park」に行き、公園内で幅広い世代の方々がアウトドアやアクティビティに触れ合っていることを見て、生涯に渡りアウトドアや自然アクティビティを生活の一部に取り入れていることを実感しました。



第3期生 立花 洋太郎さん ～ものづくり産業に関する人材の育成のため、ICTを活用したものづくり教育を学ぶ～

ICTを活用したものづくり教育を学ぶため、教育先進国のノルウェーに、8月から6か月間留学中

大学でメディア史と現代のメディアについて学びました。メディア史では古代ギリシャの時代からテレビやインターネットを利用したメディアまでの変化を学び、インターネットやソーシャルネットワークサービスが社会や人に及ぼす影響などについても学びました。主にユーザーの視点で情報の発信者としての責任や著作権について理解を深めました。

また、実践活動に向けてノルウェー人の大学生にインタビューを行い、主にノルウェーにおける高校の制度について理解を深めました。



スポーツコース

第3期生 向井原 洋平さん

～アスリットレナーに必要な知識と技術を習得、スポーツ界に貢献～
アメリカで最新のスポーツ医学を学ぶため、7月から1年間留学中

9月29日のシーズン最終戦をもって、サウザン・ジャパツ (SFG) でのインターンが終了しました。軽度、重度のけがが比較的多く発生し、アスリットレナーとしては多くの経験を積むことができた充実したシーズンでした。

大学野球部での活動は、リハビリに取り組んでいる選手の治療や投球プログラムをおよそ20～30分で効率良く回し、慌ただしく練習時間が過ぎていきます。

10月からは公式の全体練習が始まり、紅白戦も組まれているので競争激化により、更にけが人が増えると予想しています。そのため、より実践的な経験を積むことができると考えています。



未来の匠コース

第3期生 鹿野 皓己さん

～北海道ブランドのワインを確立するため、醸造技術の向上を目指す～

ドイツでワイン醸造の最先端技術を学ぶため、2019年9月から6か月間留学中

ぶどうの収穫時期に入り、ぶどう受入作業、圧搾作業、マシニングの研修を行いました。

マシニングとは、果実を割った後の赤ワイン用ぶどうを、蒸気を使い80℃以上の高温にする作業です。

一日平均150tほどを受け入れ、オートメーション化した作業により少人数で効率的に対応できています。マシニング後、一定時間液温を高く保つことで赤ワイン特有の色素やポリフェノールを短時間で抽出できます。

北海道との違いを様々な角度から感じており、しっかりと北海道に貢献できる学びをしています。



文化芸術コース

第3期生 清水 柚衣さん

～演奏活動を通して音楽に溢れた北海道を創り、北海道の音楽環境や音楽レベルの向上を目指す～

ハンガリーでリスト音楽院のプログラムに参加するため、2019年9月から10か月間留学中

9月中旬から本格的に実技のレッスンも始まりました。週2回のピアノレッスンのほか、週2回のハンガリー語のレッスン、週1回の室内楽のレッスン、その他英語と音楽理論の授業も履修しています。室内楽では日本人のヴァイオリニストと組んでレッスンを受けていて、先生の師のヴァイオリンのレッスンにも同行しています。

ハンガリーでの生活は毎日が新鮮で、レッスンも充実しています。



応援パートナーの皆様

(2019年10月現在・敬称略)

有末 真哉 石川 諭史 遠藤 光二 小黒 敬三 坂詰 貴司 佐藤 友昭 (税理士法人FULL SUPPORT 代表社員税理士) 鈴木 伸明
 武田 孝 (拓殖工業(株)代表取締役会長) 船津 秀樹 その他匿名希望の個人・企業4者